長洲町立長洲小学校　校長便り　No.4

みんなの居場所

頭の体操コーナー

裏に頭の体操クイズを載せています。小学校で学習することをベースに作っています。出来る出来ない関係なく、ご家族でチャレンジしてみてください。会話が広がります。

令和4年5月2日(月)

自主自立への第一歩 メディア・コントロール

荒尾勤務の折、JRを利用した通勤中、車中4分の3くらいのお客さんがスマホを見ています。その中で、私は文庫本を読むのですが、一人だけ本を読んでいると、私だけ時代遅れのような気がしてきます。

ソーシャル・メディアは、便利ですが扱いを間違えるとトラブルの元になります。犯罪に巻き込まれること、犯罪者になってしまう恐れもあります。しかも無意識のうちにです。例えば、動画のアップ。「面白いから」という簡単な理由で、個人が特定できるような映像をアップしたとします。了解を得ずにアップした場合、権利の侵害に当たります。更に、簡単にアップできるために、最近の中学生高校生は、ソーシャル・メディアをおもちゃと勘違いしているような節があります。非常に危険であり、危機管理が出来なければ使用は控えるべきです。スマホを使わせるにあたり、大人が危機感を持っていなければ、子供に使わせるべきではないですし、子供に危機感がなければ、すぐにでも使用を中止すべきです。私は、我が子の高校進学時、スマホ貸与の契約をしました。扱いについてはある程度のルールを強制しています。反発はなく、それよりも部活（野球）に全力投球しています。ただ、時間があるとSNSの誘惑に負けてしまうのが若さというか弱さというか…。

メディアに限らず、やるべきことをきちんとやるということは、誘惑に打ち勝つことですよね。

GW「調子に乗らない」こと

本格的にゴールデン・ウィーク（GW）の只中です。コロナ禍ではご家庭でも計画が立てにくいかもしれませんね。私澤田、人ごみが嫌いで、多分どこへも行かず、家でゴロゴロか近くの立田山に散策です。いやいや、プラモデルを作ろう、いや、積読をやめて読書をしよう、いや育てているメダカのタライを洗おう…。やりたいことはたくさんあるのですが、先立つ物がないので、出来るだけコスパが良いものを選んでしまう私です。

さて、GWは私たち教師にとって少し心配な時期でもあります。自由な時間とお金が出回る時期といってもいいでしょう。また、夏休みや冬休み等とは違って、4月の慌しさを過ぎ、緊張感も下がって、羽を伸ばす子供達も多いのです。羽を伸ばすというと聞こえが良いのですが、度を越えた行為については、大人が厳しく対処しなければなりません。分かりやすい言葉で表現すると「調子に乗らないように」ということでしょうかねぇ。私たち教師もGW中は休養も取りますが、「生徒指導アンテナ」の感度を上げる時期でもあります。是々非々の指導を行う時期です。

担任時代にも何度も話してきたのですが、ここでもお話します。なぜ子供達のルール違反や生徒指導上のトラブル、安全面でのトラブル等について、我々教師が厳しく指導するのか？　それは、私たち教師の経験に基づいています。これまで多くの子供達を担任、指導させて頂いた中で、その子がどのような進路をたどるのか、あるいは家族がどのような思いをされるのかを知っているからです。ここまで書けばお解かりだと思いますが、やはり生徒指導上のトラブル等は、将来の本人や家族に大きな影響を与えるからなのです。逆に、物事を正しく判断し、ルールをきちんと守る子や、思慮分別のある子はルール違反もしませんし、「君子危うきに近寄らず」で、危険を冒す（ルールを破る）前に行動を修正します。その力は正に生きる力といってもいいでしょう。また、ルールを守ることが出来ないと、将来の自分の可能性を低くしていることにもなります。そのことを大人は伝えなければなりません。その最前線が保護者である皆様であり、私たち教師であり、地域住民の皆様でもあります。楽しみなGW、子供達が、保護者の皆様が有意義なGWを過ごせることを祈っています。

シリーズ「自分を語る」#4

早速このシリーズに反響を頂いています。有難い限りです。

さて、幼少期というのは誰でも定かな記憶はあまり無いのではないかと思いますが、それでも思い出や経験は深層心理に根付き、現在の言動にも影響を与えているのではないでしょうか。昨年、前任校でPTA主催の42．195㎞強歩会を行ったのですが、強歩会そのものの企画や指導に私も参加させて頂きました。担任時代に経験があったからです。その根底にあると思われるのが、今からお話しする経験です。

この経験は私の記憶の中に、かなり鮮明に残っているものです。幼稚園に行っていた頃ですから、私が5歳の時の話です。熊本市の坪井に伯母夫婦の家があり、私はその近くの幼稚園に通っていました。通園バスに乗って、当時ぜんぜい新地団地から坪井までの道を眺めるのがとても楽しみでした。そしていつの間にか経路を覚えてしまっていたのです。両親は共働きでしたので、私たち兄弟はよく伯母の家に預けられていました。当時、弟は3歳でした。両親は共に中学までしか出ておらず、「体を動かして働く事しかできんけんなぁ。」と言って、よく働いていましたねぇ。成程、父は午前中水道配管の仕事、午後からはパン工場の仕事、母は私達を連れて伯母夫婦が経営していた設備会社の手伝い、午後から内職というハードスケジュールをこなしていました。高度経済成長の真っ只中ですから、両親は働くことが楽しかったと今でも懐かしそうに話しています。

さて、ある日の夏の休日の出来事です。久し振りの休みだったのでしょう、母は私たち兄弟を連れて、伯母の家に行くことになりました。従兄弟がいるので私達も楽しみにしており、場所もよく分かっているものだから、私は母にこう言いました。「先に行っとく。」これがいけませんでした。母は「時計屋さんに行ってすぐに戻るから。」と言って、私達と別れました。時計屋さん？　当時の私にとっての時計屋さんは、鶴屋デパートに行かないと無い場所でした。「母は鶴屋に行くんだ、いいなぁ…」と思いながら伯母の家へ向かう私たち兄弟。しかし母はすぐ近くのマーケットの中にある時計屋さんで、電池の交換だけをするために行ったのでした。

伯母の家で呼び鈴を鳴らし、暫く待ちましたが誰も出てきません。数回呼び鈴を鳴らしたと思います。段々不安になってきました。弟が泣き始め、私はどうしようもなくて、とにかく考えました。「鶴屋は遠いし、弟が泣いていることを考えると早く母に会いたい。バスに乗るような知識もお金もない…よし歩いて家に帰る！」何でそんな思考になるのかと叱られそうですが、泣きじゃくる弟を連れた5歳の私にとってはそれが最善策だったのです…。　（つづく）

※　「みんなの居場所」に関するご意見ご感想をお寄せください。（「みんなの居場所」への掲載の　可　・　不可　）